

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

摂南大学は、大正11年に「理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人の育成」を目指して創設された関西工学専修学校を淵源とし、昭和50年に工学部（現・理工学部）のみからなる単科大学として設立、昭和57年に国際言語文化学部（現・国際学部 ※令和4年4月設置）、経営情報学部（現・経営学部）、昭和58年に薬学部、昭和63年に法学部、平成22年に経済学部、平成24年に看護学部、令和2年に農学部をそれぞれ増設し、現在8学部を擁する総合大学となっている。

現在においても、「建学の精神に則り、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・総合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する」を教育の理念に掲げ、総合大学としての特色ある教育・研究を進めている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

現代社会学科

現代社会は歴史的とも言える巨大な転換期にある。それは「VUCA」（Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）とも称され、既存のパラダイムや細分化された専門性では将来予測が困難な時代である。よりよい社会の実現のためには、複雑化する現代的諸課題の解決に向けた人間力・実践力・統合力の養成が不可欠となっている。このような社会状況を背景として、現代社会学科では、社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた現代社会が抱える諸問題の解決に貢献できる知的専門職業人の養成を目指す。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学の教員養成の理念は、憲法および教育基本法をふまえ、教育への情熱と使命感、生徒の成長・発達についての科学的な認識に基づいて、日々、創意と工夫に充ちた実践的指導に努める教師、人間としてよりよき方向を生徒とともに探求する努力を惜しまない教員の養成である。

この理念は、「世のため、人のため、地域のために理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」という建学の精神ならびに「全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する」という教育理念に基づくものである。

上記目標を達成するため、教職課程においては1年次から4年次まで、「教科及び教科の指導法に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」に加え、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」について、各学部・学科等の教育課程に柔軟に対応するためバランスよく配置している。

さらに「教育の基礎的理解に関する科目等」においては、以下のことに留意したカリキュラム編成を行い、指導している。

（ア）多様な人と円滑にコミュニケーションする力を養うとともに、自身の専門教科以外の教科についての知識を身に付けるため、1年次より各学部・学科等にわたる横断的なクラス編成を行うとともに、このようなクラス編成を学年進行と共に増やしている。

（イ）「大学が独自に設定する科目」として、2年次以降を対象として「地域連携教育活動Ⅰ・

Ⅱ」を開講している。本科目は、地域の実情を知り、地域の学校を知ること、実際の学校と児童・生徒を理解することを目的として、大学近隣の小中学校の協力の下、年間を通じて学校に出向いて活動するものであり、低年次から教育への理解を深め、教職に対する意欲をさらに喚起するために資するものである。同時に、学生以外の様々な人とコミュニケーションを図る貴重な機会と捉え開講している。

(ウ) 「教職実践演習(中・高)」においては、教育実習Ⅱ・Ⅲでの経験を踏まえ、これまで学んできた「教科及び教科の指導法に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」の知見を更に深めることができる内容で構成している。また、学校や児童・生徒、そこにおける教育の多様性を知るため、中学校見学を複数回取り入れるなど、現職の先生方からご講話いただく時間を設けている。

(エ) 各科目内や教職課程の行事など、折に触れ、現職の先生方や教育委員会の方をお招きし、ご指導いただくようにしている。

(オ) 各科目においては、授業形態にかかわらず、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、コメントペーパー等を用い、即時のものも含めてアウトプットの機会を設けるようにしている。また、そうしたアウトプットに対しては、その方法に応じたフィードバックを行っている。

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

現代社会学科

現代社会が抱える不定形な諸問題に対し、自ら調査を行い正確な事実を把握するとともに、社会学の理論的枠組を用いて分析し、実現可能な解決策を提案する。さらに、解決策の提案にとどまらず、社会学的想像力を用いた共生的解決に主体的・実践的に取り組んでいける力を修得する。その目的を達成するために、講義、演習などの授業形態にかかわらず、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、グループワーク、ディスカッション、リフレクションなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を展開する。

こうした教育方針をベースに、本学科では大学の教員養成に対する理念に基づき、主として以下の点に重点をおきながら、高度な資質をもつ教員の養成を目指す。

(ア) 社会学および関連諸分野に関する幅広い知識・技術を身につけた総合力のある教員を育成する。

(イ) 自我と相互行為、家族と親密性、ジェンダーとセクシャリティ、労働や消費、人間活動と自然環境、医療・福祉・教育、逸脱行動・社会病理、都市や農村など地域社会、グローバリゼーションとエスニシティ、文化・表象、メディア・情報・コミュニケーション、社会運動・国家・政治という社会学が包摂する多様な領域のうち、特定分野における高い専門知識と思考力を身につけ、社会学的想像力と実践力をもって現代社会の諸問題の解決に貢献し、豊かな創造力と強い指導力を有した教員を育成する。

(ウ) 人権を尊重し、教育者としてふさわしい人間力のある人材を育成する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨(学科等ごとに校種・免許教科別に記載)

現代社会学科

[中学校一種免許状(社会)]

中学校社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及

び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」（学習指導要領）を育成することである。このような目標掲げる中学校社会科の教員を養成することは、本学科の教育研究上の目的にも合致している。

現代社会学科では、研究対象となる多様な社会現象を的確に把握、分析するために、社会学及び関連諸分野について、理論と実際を新旧の知識や技術とともに修得させる専門教育を行う。さらに学生一人一人が社会学の学びと様々なフィールドにおける経験を通じて、「社会学の学びを通じて獲得すべき基本的な能力」（日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」）及び特定分野に関する専門的知見、実践力を身につけて、地域社会に貢献する能力を修得することを目指している。

本学科におけるこのような学修を通して修得した歴史学、地理学、法律・政治学、社会・経済学、哲学・倫理・宗教学に関する専門知識、実社会における実践的能力は、上記中学校社会科の目標、特に、多面的・多角的な視野、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成するのに資するものである。また、本学科で培った学びに対する姿勢は、「学び続ける教員」として体现される。

以上のように、本学科での学びを中学校社会科教育に活かすべく、中学校一種免許状（社会）の教職課程を設置する。

【参考】社会学の学びを通じて獲得すべき基本的な能力

①分野固有の能力

ア 問題を発見する能力、イ 多様性を理解する能力、ウ 実証的調査を行う能力、エ 理論的に思考する能力、オ 社会を構想し提言する能力

② ジェネリックスキル

ア 社会の成員としての自己を理解する能力、イ 他者に対して寛容な態度をもつ能力、ウ 根拠を持った論理的な主張をして人を説得する能力、エ グループで作業する能力とコミットメント、オ 情報リテラシーとプレゼンテーション能力、カ 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力

（出典 日本学術会議 社会学委員会 社会学分野の参照基準検討分科会（2014）「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」）

[高等学校一種免許状（公民）]

高等学校公民科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」（学習指導要領）を育成することである。このような目標掲げる高等学校公民科の教員を養成することは、本学科の教育研究上の目的にも合致している。

現代社会学科では、研究対象となる多様な社会現象を的確に把握、分析するために、社会学及び関連諸分野について、理論と実際を新旧の知識や技術とともに修得させる専門教育を行う。さらに学生一人一人が社会学の学びと様々なフィールドにおける経験を通じて、「社会学の学びを通じて獲得すべき基本的な能力」（日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」）及び特定分野に関する専門的知見、実践力を身につけて、地域社会に貢献する能力を修得することを目指している。

本学科におけるこのような学修を通して修得した法律・政治学、社会・経済学、哲学・倫理・宗教・心理学に関する専門知識、実社会における実践的能力は、上記高等学校公民科の目標、特に選

択や判断、考察の基礎となる諸概念や理論の理解、合意形成や社会参画のための方法を身に付けた上での、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能、現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、その解決に向けて判断したり議論する力を養うのに資するものである。また、本学科で培った学びに対する姿勢は、「学び続ける教員」として体现される。

以上のように、本学科での学びを高等学校公民科教育に活かすべく、高等学校一種免許状（公民）の教職課程を設置する。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

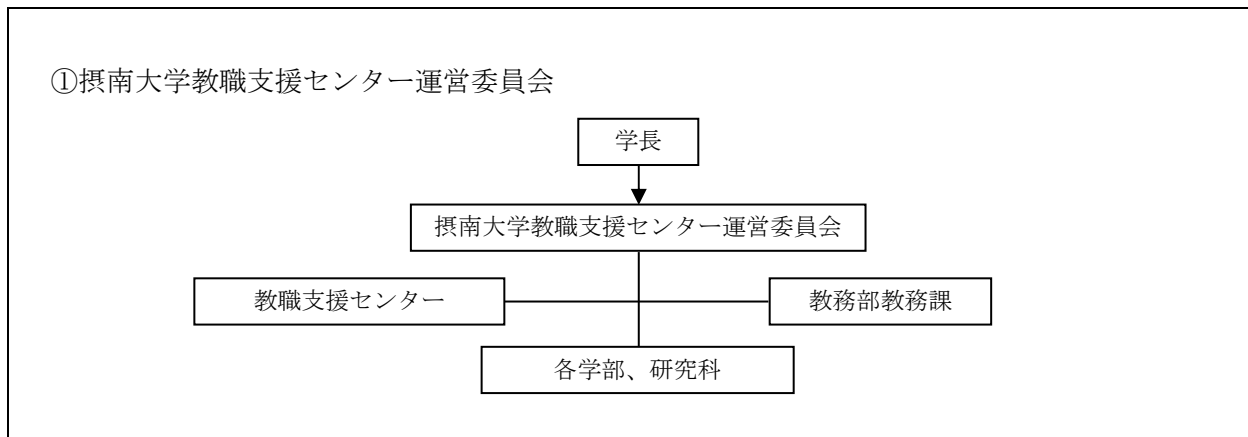
①

組織名称：	摂南大学教職支援センター運営委員会
目的：	本学の教育目的に従い、教職課程および教員養成に関する教育と研究を推進し、教職を志望する本学学生の支援および教職課程を全学的に運営することを目的とする。
責任者：	教職支援センター長
構成員（役職・人数）：	教職支援センター長（委員長）、教職支援センター主任（副委員長）、センター員（教育の基礎的理解に関する科目を担当する専任教員4名、教職課程を設置する各学部から選出された教員各1名）、就職部の中から就職部長が指名した者1名 その他必要に応じて学長が任命した者
運営方法：	学長の諮問に応じて、全学の教職課程に関する事項（授業計画、教職課程の運営、課程認定申請、自己点検・評価等）について審議する。 委員長は教職支援センター長であり、委員会の議事定足数は委員の3分の2以上の出席となっている。委員会の庶務は教務部教務課で取り扱う。

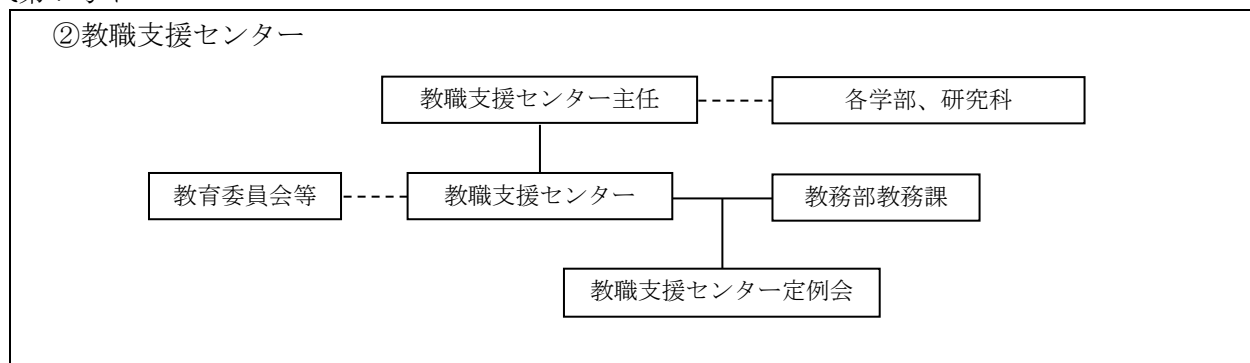
②

組織名称：	教職支援センター
目的：	教職課程を実務的に運営する中で発生する諸問題について検討、審議することを目的とする。
責任者：	教職支援センター主任
構成員（役職・人数）：	教職支援センター長、教職支援センター主任、教育の基礎的理解に関する科目を担当する専任教員4名、教務部教務課の職員3名
運営方法：	教職課程を実務的に運営し、直接的な学生指導全般を行う。具体的には、教職支援センター運営委員会で審議された教職課程のカリキュラムの遂行、学科や専攻等との連絡を行う。介護等の体験、教育実習、教員採用選考試験、教員免許状申請などで関わる学外機関との連絡調整も行っている。学生指導では、教職課程に関する各種ガイダンスの実施、履修指導、各種相談対応を行っている。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 地域連携教育活動（大学が独自に定める科目）

連携先との調整方法： 大学近隣の小学校・中学校に学生の受け入れ依頼を行い、教務課で受け入れ人数や内容等について取りまとめている。教職支援センター主任が窓口となり先方とやり取りをするのに加え、学生の活動先が決まってからは教職支援センター教員が1人につき1校以上を担当し、学生たちへの助言等を行っている。

具体的な内容： 大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分を行っている。

Ⅲ. 教職指導の状況

教職支援センターにおける教職協働のもとで、学生への各種指導を行っている。履修要領、介護等の体験、教育実習、教員免許状申請などの各種ガイダンスにおいては、教育的な観点からの指導を専任教員が、手続きや留意事項等については事務担当者が説明を行っている。履修指導は主に教務部教務課の事務担当者が行うが、専任教員でも対応できるようにしている。

また、随時、教科及び教科の指導法に関する科目の担当教員と教育の基礎的理解に関する科目等の担当教員が情報交換・意見交換を行っており、学生指導体制の向上の材料としている。

様式第7号ウ

<現代社会学科> (認定課程: 中一種免(社会))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	入学時のガイダンスで大学での学び、所属学科の授業科目やその履修について理解する。さらに同時期に実施する教員免許取得を希望する学生を対象とした教職課程ガイダンスでは、「教育への情熱と使命感、生徒の成長・発達についての科学的な認識に基づいて、日々、創意と工夫に充ちた実践的指導に努める教師、人間としてよりよい方向を生徒とともに探求する努力を惜しまない教員の養成」という本学の教員養成の理念を理解し、自己の将来像や目標を定めていく。また、教職課程の履修方法の説明を受け、教職カルテの登録を行った後、教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。 また、社会学の考え方と現代社会を取り巻く状況に関する基礎知識及び日本史や法学の知識など教科の専門的事項に関する知識を身につけ、社会の現在と未来について考察するための基礎力を修得する。
	後期	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法を学ぶ。教員としての人間観や教育観へ及び影響を学び、自己の将来像をさらに深く考える。基本的人権や今日の日本における人権課題についても理解する。 さらに、日本史・外国史の幅広い知識を身につけるとともに、社会学及び現代社会についての基礎知識を踏まえ、社会が抱える課題を多角的な視点から理解し、その解決策を多様なアプローチから模索する力を修得する。
2年次	前期	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)、教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法について理解する。 また、地理学、哲学に関する知識を身につけるとともに、社会学が包摂する多様かつ広範な諸領域の概要を理解し、それらと個々人の日常生活を関連させて捉える「社会学的想像力」を獲得する。
	後期	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を学ぶことに加えて地理学、哲学に関する理解を深める。 現代社会の様相を的確に把握するための量的及び質的調査とデータ分析の手法を身につけるとともに、さまざまな事象を社会的背景並びに歴史的展開を含めて考察するための視点を獲得する。
3年次	前期	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解、道徳の理論及び指導法、1・2年次で修得した教科に関する地理歴史および公民の専門知識の実践的な指導方法を理解する。 また、多様かつ広範な社会学の領域及び現代社会を取り巻く状況から、関心領域及び探究課題を選択するとともに、専門的な学修に取り組むための手法としての社会学的研究法を学ぶ。その過程において、他者との対話を積極的に行い、多様な価値観、意見を尊重する態度を涵養する。
	後期	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法を学ぶ。 また、現代社会の諸事象に対し、学術的知見及び自身の経験を踏まえて課題を分析し、実現可能な解決策を提案する力を身につける。さらに、提案した解決策に対して、他者と協働しながら主体的に取り組む意欲と態度を養う。そして、これらの学修を踏まえて、多面的・多角的な視野、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成するための実践的な指導の方法を学ぶとともに、次年度の教育実習に向けて事前学習を行う。
4年次	前期	「教育実習」では、事前指導において実習の目的と意義を学び、実習先である学校現場では、これまで学んできた内容を実践し、事後指導において実習先での学びや反省を整理して理解し、教育に対する考察を深める。 また、「卒業研究Ⅰ」では、現代社会のさまざまな事象を研究対象として捉え、これまでに学修した専門的知識や技能を用いて自ら探究した研究成果を卒業研究要旨に表現するための課題設定、実行力、コミュニケーション能力を修得する。
	後期	「教育実習」の事後指導では、前期に続き実習先での学びや反省を整理して理解し、教育に対する考察を深める。「教職実践演習」では、教育実習における体験と反省をふまえ、修得度が不十分な領域に関する研究活動を行い、自らの資質・能力を補完する。そして、さらなる向上を目指し、教育者として生涯にわたり自ら学び高めしていく自己教育力を修得する。 さらに、「卒業研究Ⅱ」では口頭発表力や討議等のプレゼンテーション能力を修得するとともに、文献調査や各種情報収集により生涯学び続けることのできる能力を修得する。

様式第7号ウ（教諭）

＜現代社会学科＞（認定課程：中一種免(社会)）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	C	教師論	日本の歴史 法学入門 現代社会学入門		スポーツ科学実習Ⅰ 英語基礎会話Ⅰ	メディア社会学 都市計画論
		2	E	教育心理学	現代社会の諸問題 社会調査入門 FAL入門		データサイエンス基礎	
	後期	2	B	教育原理	日本社会変動史 世界の歴史		日本国憲法 スポーツ科学実習Ⅱ	情報社会論 スポーツ社会学
		3	I J	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	社会調査法 基礎統計学		英語基礎会話Ⅱ 情報リテラシー	
2年次	前期	2	G	教育課程論	人文地理学			社会統計学
		3	Q	教育方法論				
		3	R	教育における情報通信技術の活用	哲学Ⅰ			
	後期	2	D	教育経営論	社会構造変動史 地誌学 自然地理学			国際社会学 地域スポーツ論
		3	L N	生徒指導論（進路指導を含む）	子どもと教育の社会学 日常生活世界論 哲学Ⅱ			
	通年					地域連携教育活動Ⅰ		
3年次	前期	2	F	特別支援教育論				地域メディア論
		3	H	道德教育論				
		1	A	社会科教育法Ⅰ（地歴分野）				
		1	A	社会科教育法Ⅲ（公民分野）				
	後期	3	M	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）				自然と科学の社会学
		1	A	社会科教育法Ⅱ（地歴分野）				
		1	A	社会科教育法Ⅳ（公民分野）				
		4		教育実習Ⅰ				
	通年					地域連携教育活動Ⅱ		
4年次	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		教育実習Ⅲ				

様式第7号ウ

＜現代社会学科＞（認定課程：高一種免（公民））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	入学時のガイダンスで大学での学び、所属学科の授業科目やその履修について理解する。さらに同時期に実施する教員免許取得を希望する学生を対象とした教職課程ガイダンスでは、「教育への情熱と使命感、生徒の成長・発達についての科学的な認識に基づいて、日々、創意と工夫に充ちた実践的指導に努める教師、人間としてよりよき方向を生徒とともに探求する努力を惜しまない教員の養成」という本学の教員養成の理念を理解し、自己の将来像や目標を定めていく。また、教職課程の履修方法の説明を受け、教職カルテの登録を行った後、教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。 また、社会学の考え方と現代社会を取り巻く状況に関する基礎知識及び法学の知識を身につけ、社会の現在と未来について考察するための基礎力を修得する。
	後期	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法を学ぶ。教員としての人間観や教育観へ及びその影響を学び、自己の将来像をさらに深く考える。基本的人権や今日の日本における人権課題についても理解する。 さらに、社会学及び現代社会についての基礎知識を踏まえ、社会が抱える課題を多角的な視点から理解し、その解決策を多様なアプローチから模索する力を修得する。
2年次	前期	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法について理解する また、政治学、経済学、心理学などに関する知識を身につけるとともに、社会学が包摂する多様かつ広範な諸領域の概要を理解し、それらと個々人の日常生活を関連させて捉える「社会学的想像力」を獲得する。
	後期	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）、生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を学ぶことに加えて政治学、心理学に関する理解を深める。 現代社会の様相を的確に把握するための量的及び質的調査とデータ分析の手法を身につけるとともに、さまざまな事象を社会的背景並びに歴史的展開を含めて考察するための視点を獲得する。
3年次	前期	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解、1・2年次で修得した教科に関する専門知識の実践的な指導方法を理解する。 また、多様かつ広範な社会学の領域及び現代社会を取り巻く状況から、関心領域及び探究課題を選択するとともに、専門的な学修に取り組むための手法としての社会学的研究法を学ぶ。その過程において、他者との対話を積極的に行い、多様な価値観、意見を尊重する態度を涵養する。
	後期	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法を学ぶ。 また、現代社会の諸事象に対し、学術的知見及び自身の経験を踏まえて課題を分析し、実現可能な解決策を提案する力を身につける。さらに、提案した解決策に対して、他者と協働しながら主体的に取り組む意欲と態度を養う。そして、これらの学修を踏まえて、選択や判断、考察の基礎となる諸概念や理論の理解、合意形成や社会参画のための方法を身に付けた上での、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能、現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、その解決に向けて判断したり議論する力を養うための実践的な指導の方法を学ぶとともに、次年度の教育実習に向けて事前学習を行う。
4年次	前期	「教育実習」では、事前指導において実習の目的と意義を学び、実習先である学校現場では、これまで学んできた内容を実践し、事後指導において実習先での学びや反省を整理して理解し、教育に対する考察を深める。 また、「卒業研究Ⅰ」では、現代社会のさまざまな事象を研究対象として捉え、これまでに学修した専門的知識や技能を用いて自ら探究した研究成果を卒業研究要旨に表現するための課題設定、実行力、コミュニケーション能力を修得する。
	後期	「教育実習」の事後指導では、前期に続き実習先での学びや反省を整理して理解し、教育に対する考察を深める。「教職実践演習」では、教育実習における体験と反省をふまえ、修得度が不十分な領域に関する研究活動を行い、自らの資質・能力を補完する。そして、さらなる向上を目指し、教育者として生涯にわたり自ら学び高めしていく自己教育力を修得する。 さらに、「卒業研究Ⅱ」では口頭発表力や討議等のプレゼンテーション能力を修得するとともに、文献調査や各種情報収集により生涯学び続けることのできる能力を修得する。

様式第7号ウ（教諭）

<現代社会学科>（認定課程：高一種免（公民））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教師論	法学入門 現代社会学入門 現代社会の諸問題		スポーツ科学実習Ⅰ 英語基礎会話Ⅰ	メディア社会学
		2	E	教育心理学	社会調査入門 FAL入門		データサイエンス基礎	
	後期	2	B	教育原理			日本国憲法 スポーツ科学実習Ⅱ	情報社会論 スポーツ社会学
		3	I J	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	社会調査法 基礎統計学		英語基礎会話Ⅱ 情報リテラシー	
2年次	前期	2	G	教育課程論	日本の政治			社会統計学
		3	Q	教育方法論	経済学入門			
		3	R	教育における情報通信技術の活用	心理学Ⅰ 哲学Ⅰ			
	後期	2	D	教育経営論	世界の政治 子どもと教育の社会学 日常生活世界論			国際社会学
		3	L N	生徒指導論（進路指導を含む）	臨床心理学 心理学Ⅱ 哲学Ⅱ			
	通年					地域連携教育活動Ⅰ		
3年次	前期	2	F	特別支援教育論		道徳教育論		
		1	A	社会科教育法Ⅲ（公民分野）				
	後期	3	M	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）				自然と科学の社会学
		1	A	社会科教育法Ⅳ（公民分野）				
		4		教育実習Ⅰ				
	通年					地域連携教育活動Ⅱ		
4年次	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		教育実習Ⅱ				